

お城たより

No. 8
2006.1.1



写真：福岡城跡：冬の風景

特に、国内旅行では、「大名庭園をめぐる旅」など九州の歴史文化を取り入れた広域観光ルートの開発を進めており、九州各地に残る城跡や歴史遺産なども貴重な観光素材であると認識しております。本県といたしましては、九州観光推進機構と連携し、県内の優れた歴史文化資源を活かした旅行商品の実現に取り組んでまいります。

こうした中、「鴻臚館・福岡城跡歴史観光・市民の会」の皆さまが行なっている「観月の宴」開催や福岡城跡散策マップの作成などの諸活動は、福岡県の貴重な歴史文化資源のひとつである「鴻臚館・福岡城跡」の魅力を多くの方々に伝えていたるものであります。観光振興上もたいへん有意義であります。地元に根ざした貴会のご活躍に深く敬意を表しますとともに、ますますのご発展を期待しております。

今年も皆様にとって素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたします。



新年あけましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

歴史文化資源と九州観光
福岡県知事 麻生 渡

鴻臚館・福岡城跡 この一年をばねに…



事務局長　岡部定一郎

うつり変わる乙酉から丙戌へ　変化の年が明け渡りました。

新年明けましておめでとうございます。

昨年一年はNPO法人が立ち上り、やつとの思いで大勢の方々のご支援で、私達の日頃から目指している「使命感」に向つて邁進して参りました。本当にお世話になりました。

今、ご覧の様にNPO法人以前の福岡城四百年記念事業の時から連続発行して来た私達の機関誌「お城だより」も八号目となりました。

故桑原市長の筆になるタイトル表紙を飾る「お城だより」もすっかりなじみ毎号の私達の実践の内容を見守つて頂いているような気がいたします。

創刊号（二〇〇三・六・二五）から足かけ四年目になる今、ささやかながら一步一歩、着実に成果を求めてやつて来た表情がにじみ出て来ております。巻頭のことは市民の手で「福岡城復元を」!!をモットウに「アジアの交流都市ふくおか」の創造を立ち上げよう、と明確に指示して頂いた故桑原会長の言葉を大切に第二号では現市長である山崎広太郎（当会顧問）からもめざす福岡城一帯を福岡市民の歴

史セントラルパークとしての舞鶴公園の緑を歴史の調和ある整備を進めると表示して頂きました。第三号には築城四百年の感慨を黒田長久氏（黒田家十五代当主）より「福岡」の命名の縁にはじまり、天守閣への謎についても語つて頂きました。

第四号では当会の副会長中

島敏行氏より黒田如水公より歴代の黒田家当主の遺徳を偲びつつ多くの旧家臣団のお世話をして頂いている藤香会より黒田都市サミット開催の件を含め多事多難な現況をのり越えての激励のことばに引き続き、第五号はNPO法人としての新体制に石井幸孝氏が桑原前会長の意志を引きつぎ、前J.R九州の社長・会長の重席の体験を生かして新理事長に就任され更に具体的に四つの基本軸を示した大号令に元気百倍をいたしました。

次の第六号には高倉清子理事（タカクラホテル福岡会長）より女性のお立場から皆の力でまぼろしの天守閣を福岡城

に是非実現をと力強い応援を頂き、前号では当会顧問である福岡商工会議所の田尻英幹会頭から歴史的資源として観光文化都市の中心点となるように巻頭言を頂きました。

この様に本会に対する各方面の方々の思いを大切に、そしてバネの力として平成十八年、様々なプログラムを使命感を持って頑張つて参ります。何卒、物心共にご支援の程心よりお願い申し上げます。



“おいしさいつでも25 HOUR”



株式会社黒田屋

本部／福岡市南区花畠4丁目4-1

TEL092-565-0247

黒田屋チェーン

筑紫野店 筑紫神社前

樋井川店 大池通り島廻り橋バス停前

新宮店 国道3号線沿

春日店 新幹線車両基地横

屋形原店 レッドキャベツ屋形原店前

原店 室住団地入り口角

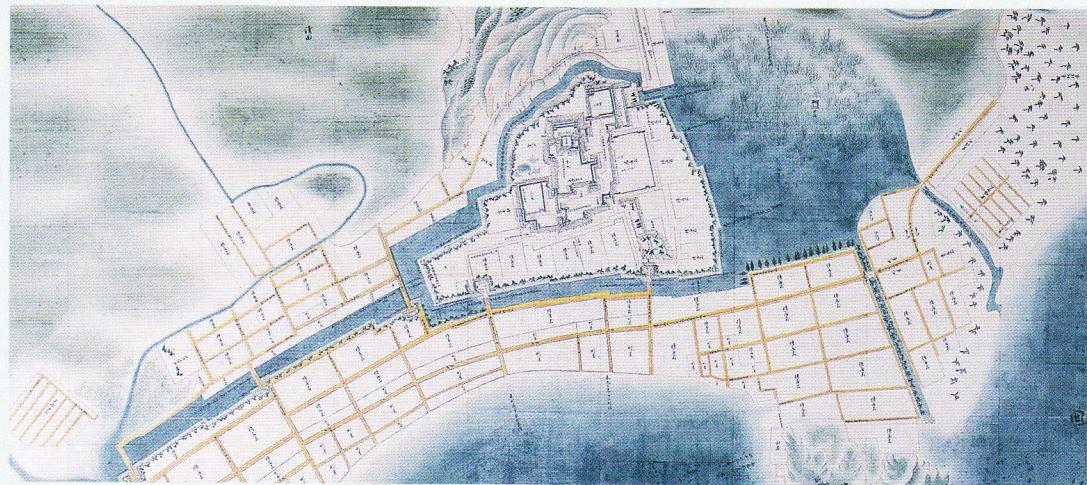
基山店 国道3号線長野信号横

千隈店 国道263号線沿城南郵便局横

チキン南蛮定食

福岡城の天守閣をめぐって

福岡市博物館学芸員 高山 英朗



正保三年「福博惣絵図」(福岡市博物館 藏)

福岡城には天守閣は築かれなかつた、といふのが今までの通説でした。この背景には、福岡藩の正史である『黒田家譜』や『筑前国続風土記』といった地誌類に天守閣が築かれたという記述がないことや、正保三年(1646)「福博惣絵図」(福岡市博物館所蔵)をはじめとする福岡城を描いた絵図類に天守閣が描かれていないことなどの理由があります。しかし、江戸時代初期の福岡藩関係の史料にも「天守」という文言が記されたものが散見され、元和六年(1620)三月十五日付の細川忠利書状案など細川家関係の史料に黒田長政が福岡城の「天主」を解体している旨の記述が見えることなどから、近年では天守閣の存在を肯定的に考える説が有力になってきてています。その一方で、これらの史料にみえる「天守(主)」文言は、寛永十五年(1638)に解体された天守台周辺の櫓や長屋のことを指していると指摘し、やはり天守閣は存在しなかつたとする説もあるのが現状です。そこで今回は、寛永十五年の福岡城修復申請を通して福岡城の天守閣について考えてみたいと思います。

島原の陣から帰国した福岡藩二代藩主黒田忠之は、寛永十五年九月、幕府に対しても福岡城の修復を願い出ます。この時、使者として江戸に派遣された家臣明石行亮が、

幕府との交渉過程を国元に知らせた史料が、九州大学附属図書館六本松分館所蔵の檜垣文庫に残されています。これらによると、天守台周辺の櫓や長屋を解体することも願い出ていることがわかります。当時、諸大名は寛永十二年六月の武家諸法度第三条の規定により、居城の石垣や土塁を修復する際には老中から許可を得る必要がありました。したがって、櫓や堀などについては原状に復すのであれば幕府へ願い出ることなく修復が行えました。この時、忠之が櫓や門の修復について願い出ているのは、黒田騒動直後であるなど対幕府交渉に配慮せざるを得ない状況であつたためと考えられます。

さて、願い出た内容は幕府から許可されており、天守台周辺の櫓と長屋は解体されたと考えられます。この時の具体的な修復箇所などを記した「御門御櫓等ヶ所付」(春日市教育委員会所蔵佐藤恭敏家文書)や、「忠之公御代日記」(福岡市総合図書館寄託小河資料)の記述によると、天守台周辺の櫓・門・長屋を四つ解体したことが知れ、これを裏付けるように前述の「福博惣絵図」では天守台西側の天守付櫓台、中天守台、小天守台に矢倉跡という注記があります。このことから、寛永十五年段階で解体されたのは中天守台や小天守台に築かれた天守台周辺の櫓などであったと考えられ、前述した元和六年三月段階で解体に取り掛かっていたという「天守」は、これらとは別の建物であったと言え、天守閣であつた可能性が非常に高いと思われるのです。しかし、これらはあくまでも天守閣の存在を示す状況

島篠小木鹿楓大大浦井青

野田松下毛 島島上福木

文京史博 泰汐貞周

均子子郎通巖治子雄介威

吉森前野鶴鶴津鈴下

田瀬田田川川 田木川

二清幸弘隆キ一慶襄久
八 ミ

郎博江信之工馬一二代

荻岡大大大石石秋秋

野部野塚塚藏井竹竹

忠定正京 利幸ヤア

一 チサ

行郎昭子正光孝ヨヨ

田 川島 紫本富

寿恍 敏金和千清郁

次 之友

正会員更新会員

正会員

名簿

辻立田酒小工川小浦今井青

石崎勾林野村倉志泉上柳

博重保俊道瑛秀亘甲康紀豊

子 子利雄憲雄子樹滋生秀興子

渡水藤福福半野西鍋中富陶

辻摩原田田田島島西澤山

由ちミ洋 玲美道元弘安秀

美ずツ 喜子子子三弘子子子昭幸央昭

阿比崎留義啓弘子

森加

藤芳み子

4名

新規会員名簿

10/16~1/16入会分

21名

18名

INFORMATION



黒田家ゆかりの秋月探訪バスツアー

平成十七年度

11月23日、本年度第5回のバスツアーである。今回は秋月・三奈木を巡る。バスは補助席まで用いた満席である。

車中で岡部氏より鎌倉あたりからの歴史をお聞きしながら、バスは快晴に恵まれ、秋月街道・千手宿・旧八丁峠を越えて秋月へと向かう。ガイド担当の野田氏の巧みな話術に車内は笑いにつつまれながら車窓の景色が流れる。黒田長政の遺言によって分藩された秋月藩の地は、紅葉鮮やかに旧藩時代を色濃く残していた。

古心寺・大涼寺の秋月藩黒田家ゆかりの古寺はさすがである。午後は福岡藩家老であった黒田一成の清岩寺、三奈木黒田家屋敷跡に向かう。やがて復元されるという庭園と屋敷は工事中。帰路は野田氏が推薦のギンギンギラギラの夕日を高速道路から見ることができた。晚秋の日は短く天神に到着したときはもう夜のイルミが点滅していた。(荻野記)

「鴻臚館・福岡城を問う!」シンポジュームのお知らせ

平成十七年度
二百四十四名。三月黒田孝高と長政親子の豊前時代四十二名・四月若松城と黒崎城三十一名・五月鷹取城と益富城四十三名・十月松尾城と左右良城四十二名・十一月秋月藩と三奈木黒田家四十四名・十二月直方藩と飯塚宿四十二名。十八年度はこの史跡探訪にいく予定です。(野田記)

お招きします。また、石田耕古画伯の「福岡城上の橋大手門」画を鑑賞し、「福岡市埋蔵文化調査報告書第七七二集」と比較検討を行います。

その後、下の橋大手門工事現場移動見学と現地説明。

平成十八年一月四日(土)

午後二時から

一、場所 読売新聞西部本社

「よみうりプラザ」

二、講師 (定員百四十名。先着順)

一般千円(資料代他含む)

会員五百円(資料代他含む)

一般千円(資料代他含む)

会員五百円(資料代他含む)



(当日展示) 石田耕古 画「大手門」

編集後記

学術部では、下記の内容で
第一回「筑紫館と福岡城下の橋大手門」
新春早々シンポジュームをし
ます。会員皆さんの参加をお
願いします。

「福岡城下の橋大手門復元工
事の現状と完成時の見通し」
● 荻野 忠行氏
(市民の会学術部長)

知つてもらうことが一番。中で
も若い次世代の方々にいかにし
て興味を持つてもらうのか?
また、街づくり、都市づくり
など同じ夢を持つグループとの
交流もぜひ、実現させたいテーマ。
今年はそのための良い知恵
べの年になりそうです。

福岡城跡は古代万葉の時代
は「筑紫館」(後の鴻臚館)
がありました。現在、その二
つとも国史跡指定地となつて
いるという日本でも希有な場
所です。今回は二人の講師を
おります。これからも活動の課題は山積
みですが、まず「市民の会」を

福岡しんきん

福岡信用金庫

本店／福岡市中央区天神1丁目6番8号 天神ツインビル

Tel.751-4731

URL <http://www.fukuoka-shinkin.co.jp>

この街と
生きていく。



地域の皆様の力になります。